

鹿児島県の新一年生に対するおやつアンケート調査について

○坪水良平、松田哲明
鹿児島県学校歯科医会

【目的】小学校低学年以下の小児において、おやつは栄養学的にも不可欠なものと考えられる。そこでC O生活習慣病としての齲蝕予防を考える時、食事指導、特におやつを選び方や食べ方については、小児や保護者と共に考え、学習援助する事が大変重要であると思われる。今回、おやつ現状を具体的に把握する為に、アンケート調査を行ったので報告する。

【対象および方法】鹿児島県各市町村において、就学児童を対象に実施された就学時健診をもとに、平成13年度新一年生よい歯の健康審査に推薦された児童111名（審査群）と、無作為に選出した6小学校の一年生児童376名（対照群）を対象にアンケート調査を行い回答を得た。アンケートの内容は、間食の時間を決めているか、間食の回数、間食の具体的な食品などについてである。そのうち間食の食品については、飲み物も含めこちらで用意した55品目から、普段飲食している食品を複数回答で答えてもらった。これらのアンケート内容について、両群間の有意差を調べるためカイ二乗検定を行った。

【結果および考察】間食の時間については、両群間に有意差が認められた。また、間食の回数については、ほとんど差は認められなかった。間食の食品55品目について、審査群では11.9品目、対照群では11.5品目であった。食品の内容について、いくつかの食品で両群間に有意差が認められたが、審査群が齲蝕誘発性の低い食品を選択している傾向は認められなかった。しかしおやつの際の飲み物に関しては、審査群の方が健康指向が強い傾向が認められた。

齲蝕は多因子性疾患であり、今回のおやつに関するアンケート調査では、両群間に明確な差異は認められなかった。今後アンケートの内容も現状が反映されやすいように改善し、また調査地域の特殊性もあることから経年的にアンケート調査を行い、検討を加えて行きたい。

DIAGNOdent™応用に関する臨床的研究（第3報）

○細矢由美子、後藤譲治
長大・歯・小児歯

【目的】レーザー齲蝕診断器DIAGNOdent™（KAVO社）の齲蝕検出能と研磨材が本器の測定値に及ぼす影響について観察した。

【方法】Ⅰ．齲蝕の検出に関する研究：視診、触診とX線診査により齲蝕と診断された乳歯41歯、43部位と永久歯70歯、78部位の測定を行った。Ⅱ．研磨材が測定値に及ぼす影響：研磨材10種と歯磨剤4種について測定した。また、シーラント処置を行った患者15名の永久歯16歯の咬合面あるいは舌面小窩について、2種類の研磨材と3種類のシーラント材が測定値に及ぼす影響を観察した。さらに、抜去小白歯の咬合面小窩を異なる2機で測定し、測定器が異なると測定値に差が生じるか否かを確認するとともに、研磨材の測定値に及ぼす影響も観察した。測定はチップAを用い、5回ずつ測定して平均値を求めた、統計処理には、ANOVA、Scheff's testと相関係数の検定を用いた（ $p < 0.05$ ）。

【結果と考察】1）、最終診断名別に乳歯と（永久歯）の術前測定値を比較すると、 C_0 ：4.7（12.5）、 C_1 ：3.6（30.1）、 C_2 ：28.3（22.5）であった。2）、軟化象牙質については、乳歯は乾燥しているほど、永久歯は色が濃く硬いほど有意に高い測定値を示した。3）、歯磨剤の測定値は0であったが、浮石末が配合されている研磨材はすべて、測定値が99を示した。4）、測定部位にレジ系シーラントが付着していると、測定値に影響を及ぼす可能性が示唆された。5）、DIAGNOdent™2機の測定値間に有意差はみられなかった。6）、深い小窩裂溝部に螢光を発する成分を含む研磨材を使用すると測定値が上昇し、本来の測定値が得られない場合があった。

【結論】DIAGNOdent™の使用は齲蝕診断の一助として有効であったが、隣接面部や入り口の小さく狭い齲窩に対する測定値は信頼性に欠けた。本器使用に際する歯面の清掃研磨には、本器による測定値が0を示す研磨材の使用が望ましい。